

## コムクドリの集団ねぐら、今年も OPEN!! 石川敏男(春日部市)

8/7、18:20頃、春日部市大沼運動公園南西角のユリノキ(昨年の『しらこぼと11月号』参照)にコムクドリの群れがねぐら入りするのを確認。近くの電線にも20羽位のコムクドリが止まっていて、機会を待っている様子。18:25、ユリノキに入っていたコムクドリが大集団で飛び出し北へ向かい、ほどなくして一度旋回後、ユリノキへ飛び込んだ。大集団は1,000羽は下らなかつた。その後、50~60羽位の群れが北方から10数羽飛来し順次、ユリノキへ入った。18:40にはねぐら入りの波は止んだ。

なお、8/5の夕方には何の変化も見られていない。8/6は都合で行けず未確認。よって、6日か7日にねぐらとして使用開始したと見てよいだろう。

追記:岩槻のOさんによれば、8/8は05:01に大群が飛び立ち、18:28に一度飛び出した大群がねぐらに戻って終わり。8/9は17:35にテニスコート北側のケヤキに第一波7~8羽が飛来。風雨強まり17:47に観察中止するまで、計12波約65羽が同じケヤキに集合した。その後、ユリノキに入ったと思われる。



(同所のコムクドリのねぐら入り 藤原寛治)

## 2014年8月号P5「オオハムとシロエリオオハムの識別」後日談(編集部)

『しらこぼと』の編集に携わる者としてうれしいことがありました。日本野鳥の会の支部ネット通信2014年8月号に掲載された「新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み」という文の一部です。少々長いのですが引用します。

### <シロエリオオハムの首は青い?>

増補改定版の参考文献の頁に「全国の支部報も参考にさせていただきました」と書いたように、分布や生息状況の確認にも、新たな情報を加えるか?修正するか?という判断をするためにも目を通していただいています。

例えば、日本野鳥の会埼玉の『しらこぼと』8月号に榎本秀和さんが「シロエリオオハムの夏羽の前頸の色は、図鑑に記されているほどオオハムと違わないのではないか?」という主旨の投稿をされていました。実は、「高野さんが描いたシロエリオオハムの前頸は青すぎないか?」という指摘があり、直すべきか?悩み続けてきました。

この部分は光線の具合で見え方はさまざまなので、強いてオオハムと違いを強調して描かれた可能性もあります。高野作品を歴史的遺産として残すというミッションから、間違いと言えない限りは直さないという原則があり、微妙な課題だったのですが、8月4日、高野図版の微修正の最終日、谷口高司さんに僅かに色味を変えていただきました。榎本さんが投稿されたように、オオハムとの違いが微妙であることは間違いありません。図鑑としては、そこで簡単に識別できると誤解されるようではまずいとの結果に至った次第です。(普及室/安西英明)

つまりは、図鑑改訂の際に判断材料の一つとなったというわけです。

『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の1日も早い発刊を待っています。そして、入手したら真っ先にシロエリオオハムの項を見るつもりです。(山部)